

明日 への 話題

一枚の古い写真



大和総研
副理事長

かわ むら ゆう すけ
川村 雄介

37年ぶりの広州はすっかり面貌を変えていた。仕事柄、北京出張は多いのだが広東省は久しぶりの訪問である。

往時、自転車に埋め尽くされていた広い道路には、高級車が大渋滞を作っている。くたびれた人民服姿が集っていた公園に、シュールなデザインのアート工房が建つ。たばこの煙でむせ返るようだった料理屋が、清流に錦鯉が泳ぐ豪華なレストランに変身している。

深圳証券取引所のSさんが海浜公園を散歩しようという。仄かに潮風が漂う長い防波堤に沿って広い歩道が伸び、奥に入り込んだ緑地には古い大砲が据えられている。欧州租界時代の名残だ。以前、この地に来た時にこの砲台の前で写真を撮った記憶がある。砲身を撫でているSさんは感慨深く「私が4、5歳の頃でした。日曜日には母親に連れられてここに遊びに来たものです。この辺りは開発が始まってましてね、崩れた土砂で私が事故にならないか心配じきりでした」

「それは何年頃の話ですか」Sさんは40歳前後と見える。ひょっとしたら私が広州を訪問した1978年頃に、この砲台で遊んでいたのかもしれない。「四つの現代化が言われた時期だからその頃ですかね。母は、下放政策で内蒙古の酷寒地にやられている長兄が帰って来るかもしれない、なんてね」

砲台に隣接するテニスコートでは若い女性たちが嬌声を上げている。ベンチに置かれたパイルジャケットはブランド物だ。

「私の子供時代は皆、洗いざらした羊羹色の服ばかりでした。母親は私に紺色地に刺繍を入れたシャツを着せて自慢してましたが、地味なもんでした」

遠い彼方を見つめるような視線のSさんは、ふと「そう写真を撮りましょう」とスマホを構えた。37年前は、一眼レフをぶら下げた私を子供たちが遠巻きに囲んでいたものだ。自分の目で見る経済成長は数字よりはるかに説得力がある。この成長を支えている重要なアクターは紛れもなくSさんも働く証券市場だ。

「上海の取引所はととも大きくなり香港とも繋がりました。深圳も負けてはいられません」

そういえば国の再興を目指すミャンマーも証券取引所に力を入れている。経済成長に証券市場は決定的に重要な役割を果たす。中国はより自由で先進的な市場整備を急ぐ。

先日、古い書庫を整理してみた。『78年』と記された黄ばんだ写真帳をめくると、やはりそうだった。20代の私がカメラを手にあの砲台に立った一枚の写真がある。その横で無心に崩れた煉瓦を集めている幼児は、小さな刺繍が入った紺色のシャツを着ていた。